

「完結シンポジウム」ミニレポート：令和２年３月２１日（土）

『松江市史』は、通史編４「近世Ⅱ」、通史編５「近現代」の刊行（２０２０年３月刊行）により、全１８巻の出版事業が完結しました。これを記念し、３月２１日、部会長８名が登壇し、完結シンポジウムを開催しました。当日はコロナウィルスの感染拡大防止への配慮から一般公開を中止し、録画内容を山陰ケーブルビジョン（マープル）で放映しました。

まず、基調報告として井上寛司編集委員長・中世史部会長から、「市史編纂事業の意義と重要性」について、以下７点が挙げられました。

1. 旧八束郡域を含む新松江市域全体を視野に収めた、従来にない新たなタイプの自治体史。
2. 調査の過程を通して、多くの新たな文化財や文化遺産を発見・発掘。
3. ８つの専門部会への全国規模での研究者の参加を得て、松江市域の多面的な実態を解明。
4. 日本全体や世界の中に松江市を位置付け、歴史的・地域的特徴や独自性を解明。
5. 市史講座や付帯出版物などによる、研究成果の市民・住民への公表と共有化を推進。
6. この事業そのものが「歴史を活かしたまちづくり」運動の重要な一翼を担ってきた。
7. これらの成果を松江市文書館の創設によってさらに継承・発展させる方向性の明確化。

次に、「松江市史の成果」について、部会別に報告がありました。

●自然環境部会（田坂郁夫部会長）



【通史編】

1. 自然環境は歴史と文化の舞台背景であり，基盤でもある。
2. 松江の多様で，美しく，厳しい自然を地形・地質，気象・気候，生物の三つの側面からまとめた。
3. 自然は地球の歴史という壮大な時間の流れの中でそれ自体，変化してきた。
4. 自然はそこに住む人々や生物との関わりによって変化している。

【史料編】

1. 2010 年代の松江の自然環境を後世に伝える一冊である。
 2. 動植物を中心に全体の30％に及ぶカラー口絵を設け，松江の豊かな自然環境を視覚的に伝えられるよう心がけた。
 3. DVD 資料集を添付し，紙面の都合で本編に収録できなかった膨大な史資料，カラー図版を収めた。
-

●原始・古代史部会（大日方克己委員）



1. はじめて松江市全体の考古資料の集成し総括することができた。
 2. 旧石器時代・縄文・弥生時代から松江市域を中核とした出雲国の形成に至る、トータルな歴史像をはじめて提示できた。
 3. 松江市域を中心に出雲国の古代の歴史資料（文献史料や木簡など文字資料）をはじめてすべて網羅的に収集し、提示することができた。これによって「神話」や風土記に偏りがちだったこれまでとは異なった、豊かな古代の歴史像の可能性を示すことができた。
 4. これまでほとんど解明されていなかった平安時代の出雲国の姿を明らかにできた。
-

●中世史部会（井上寛司部会長）



1. 悉皆的調査に基づく、全国的な視野に立った史料の収集
 2. 時系列による通史的叙述と経済・社会・宗教などの分野別叙述との組み合わせにより、中世松江市域が持つ多面的な歴史の実態とその変容の様相を解明
 3. 一般的には最も理解が困難とされる中世社会独自の構造や特徴の概要を提示
 4. 松江藩成立の歴史的 premise や背景を解明
-

●近世史部会（小林准士部会長）



【成果】

1. 史料の所在調査、整理の進捗
2. 基本的な史料（特に松江藩政史に関わるもの）の翻刻
3. 藩政史、都市史、郡村政、経済史、交通史、生活史、女性史、宗教史、文化史などを網羅した通史の編纂

【課題】

1. 特に村方・町方史料の所在調査や史料翻刻の継続
 2. 分野ごとの研究を総合した体系的な歴史叙述
 3. 市民による研究を手助けする手引きや入門・概説書の執筆
-

●近現代史部会（竹永三男部会長）



- 1.旧役場文書（「明治の村」単位）の悉皆調査など全市域での史料調査に基づく編集
- 2.「史料編」重要な基礎的資史料の一括掲載松江市域全体の把握が可能に
 - (1)近代松江の出発点の基礎史料「島根県歴史」「皇国地誌」の市域関係分
 - (2)自治体としての松江市の歩みの基礎史料3度の市町村合併の基本文書
 - (3)近現代の松江市域を数量的に通観する基本資料財政・人口の長期統計
- 3.「通史編」市域の自然環境・地域区分に即した総合的叙述と特定問題の分析的叙述
 - (1)第1節：政治、第2節：産業、第3・4節：社会・文化、第5節：特論、終章4項目
 - (2)戦前松江市の市政史（市長に注目）と地域政治構造の歴史的特徴の解明
…近世城下町を承けた「町」の自治／「橋南」と「橋北」というまとまり／県都・軍都
 - (3)市域の人々の多様な活動の発掘
…市民大会、川津村青年団、女性の活躍、地域保健衛生活動公民館活動等

(4)市を特徴づける文化の諸相

…漢詩文化（剪淞吟社）、民藝運動、疎開文化人の役割、国際文化観光都市等

●絵図・地図部会（大矢幸雄部会長）



1. 全国的な調査により松江藩に係わる約 1000 点の絵図地図を確認。うち約 100 点を掲載
 2. 絵図地図の科学的な研究を進め、全国規模の学会などに発表・発信（特に GIS 地理情報分析）
 3. 人々の生活と水辺利用の密接な関係を解明
 4. 絵図地図を通じ、農地、生産、徴税、輸送、市場での販売などにおいて、松江藩の管理機構が充実していたことを確認
-

●松江城部会（西尾克己部会長）



1. 松江城に関する調査・研究が大きく進展。特に、天守の創建年代（祈祷札）や構造（通し柱、包板）が明らかになったことで、天守の国宝指定につながった。
 2. 石垣の産地が解明された。（築城時と修理時の石垣）
 3. 発掘調査から城下町の様子が明らかになり、その成果が反映できた。
 - 堀尾期の屋敷跡が広範囲に残る（大手前通り）。
 - 出土品から武家屋敷と町屋の暮らしが分かった。
-

●民俗部会（喜多村正部会長）



1. 民俗の全般にわたっての網羅的な調査を心がけた。中海沿岸や宍道町など、これまで限られた地域についての民俗の網羅的報告はなされているが、出雲東部全域を対象とした包括的な民俗の採集と報告は前例もなく、その意味で今回の事業は画期的と言える。
 2. 戦後、生活の中で継承されてきた民俗は、時代と共に失われつつある。そういった中で、昭和 30 年代から 50 年代にかけての高度経済成長期、及び近年（平成 20 年前後）における民俗の変貌、消滅の実態をある程度記述することができた。
 3. 松江市域の代表的な祭礼行事について、その主なものを映像記録として収録し、CD 資料として巻末に納めることができた。
 4. 松江市域を代表する民俗として、「歳徳神の祭礼」及び「オコナイ（オトウ・伽藍さん・オモツツアン）の行事」について集中的な採集、調査を行い、その分布、特徴、ヴァリエーションを明らかにすることができた。
 5. 松江市域における民俗の地域差として、南部農村部と島根半島部の間の相違を析出した。島根半島部では、「一村一部落」と表現される御津のようにムラ(村落)は一般的に集居村が多く、統合度が強い。他方、南部農村部では散居村が多く、ムラとしての機能が分散するという傾向にある。また、年神迎えや晦日参りなど、古くからの習俗が残されているのは島根半島側である。
-

続いて、原始古代・中世・近世・近現代史の各部会から「松江市域の歴史的特徴」として以下の報告がありました。

●原始・古代（大日方克己委員）

1. 弥生時代から古墳時代にかけて、宍道湖と中海の湖岸を取り込む松江市域には、日本海や内海交流の拠点となる集落が点在していた。古墳時代中期から後期には、これらの集落を束ねる有力な豪族が意宇川下流域に現れ、大規模な古墳が多く築かれた。
 2. 国府がおかれ、出雲国内外の政治・社会・交通・文化の拠点としての位置を占めるとともに、祭祀にも関わった出雲国造・出雲臣氏の本拠地でもあり、国分寺が置かれたこととあわせて宗教的な拠点としてしての役割もあった。
 3. 9世紀には渤海使節がたびたび来航するなど、日本海をはさんだ対外交流・外交の場、境界としての位置にもあった。
-

●中世（井上寛司部会長、編集委員長）

1. 中世府中や出雲国惣社の存在など、出雲国の政治的中心としての位置を占めていた（特に南北朝期以前の中世前期）。
 2. 水運が基幹的交通手段となったこともあって、山陰地域最大の潟湖（中海・宍道湖）にある流通拠点として西日本海地域の中でとりわけ重要な位置を占めた（美保関・白潟）。
-

●近世（小林准士部会長）

1. 城下町松江が政治的・経済的・文化的な中心となっていた
 2. 宍道湖・大橋川・中海、佐陀川、日本海における水運が交通・流通面で中世と同様に重要な機能を果たしていた
 3. 松平家による統治が長く続いたことにより、松平家及びその家中と領民（特に有力者層）との間に密接な関わり合いが形成された
 4. 特に近世後期には産業・流通の発展が見られ都市など人口増加が見られた
-

●近現代（竹永三男部会長）

1.近代：中央集権化・資本主義化の中での「地域格差」の発生・拡大とその重層的現れ（※近世までとの相違）

- (1)全国規模：1900 年前後に「表日本」と「裏日本（日本海側）」の格差の成立と拡大
- (2)松江市域：旧松江市と旧八束郡各町村の格差市町村合併後の検証が課題
- (3)旧町村：町村中心部と周辺部、中山間地の格差

2.「格差是正」「後進性の克服」が市域の近現代史の動因となり人々の思考・行動を規定

- (1)初代市長福岡世徳市政：市の人口減少への対応としての地域振興策
- (2)克堂会：若槻礼次郎個人後援会の結成「裏日本」化による劣勢の挽回のため
- (3)1960 年代の原発誘致「原発設置で島根県は先進地になる」という期待の存在

3.市民・住民の自治の歩みから見た現状と課題

- (1)戦前：「町」が自治の担い手（市議候補の「予選」）、戦後の変化：政党の役割の増大
- (2)住民自治の現状：各種選挙投票率の低下、住民自治の基盤である自治会活動の停滞

最後に井上編集委員長から、「今後の課題」として以下の点が指摘されました。

- 1. 新しい史料の補足とさらなる史料調査の必要（考古分野、近世史分野など）
- 2. さらなる歴史分析や解明の必要（近世全般、占領期・戦後の松江市政、松江市域内の民俗的地域差、他地域城下町との比較、松江市域の歴史的特徴・独自性など）
- 3. 収集されたデータや史料編の活用（自然環境、絵図・地図など）
- 4. 研究成果をより分かりやすく、市民共有のものとするための取り組み（通史編を中心とする市史を読む会、多様な形での副読本、百科事典の編纂など）
- 5. 研究成果を松江市の行政に活かすための取り組み（松江市文書館の早期の開設、松江市文化財・観光行政などとの連携）

シンポジウムの終わりに、長年、市史講座で司会を務めていただいた乾隆明先生に、井上編集委員長から感謝状が贈られました。



「乾隆明様

あなたは多年にわたり、松江市史編纂事業の推進にご尽力くださいました。とりわけ、松江市史講座の開催にあたりましては、その運営と事業の推進に熱意を注がれ、市民の皆様に歴史への理解と関心を深めていただきました。

ここに、その功績をたたえ、深く感謝の意を表します

令和二年三月二十一日

松江市史編集委員長 井上寛司